

『施設・設備』

10 施設・設備

(10-1) 学内の学習環境

基準 10-1-1

薬学教育モデル・コアカリキュラム及び薬学準備教育ガイドラインを円滑かつ効果的に行うための施設・設備が整備されていること。

【観点 10-1-1-1】 効果的教育を行う観点から、教室の規模と数が適正であること。

【観点 10-1-1-2】 参加型学習のための少人数教育ができる教室が十分確保されていること。

【観点 10-1-1-3】 演習・実習を行うための施設（実験実習室、情報処理演習室、動物実験施設、RI 教育研究施設、薬用植物園など）の規模と設備が適切であること。

[現状]

現在、講義室は26室、演習室は2室設置している。これらを収容人員別にみると次のとおりとなる。300人収容の講義室が4室、200人収容が5室、100人収容が9室、50人収容が8室の講義室と最高200人まで収容できる2室の演習室がある。26講義室の設備の点についてみると、12室にはDVD/VHS ビデオデッキ、モニターが複数台備えられており、スクリーンが常設されている。このほかに、語学学習など少人数教育ができる講義室としては14室あり、机と椅子の移動が容易であり、組み合わせが自在にできるようになっている。【観点 10-1-1-1】 【観点 10-1-1-2】

二つの演習室（第1演習室：311㎡、第2演習室：311㎡）は現在、主に実務実習事前教育で使用しており、SGD 教育に活用されている。次に、演習・実習を行うための施設としては薬用植物園（163.63㎡）があり、5号館にアイソトープ実験施設（518.3㎡）と動物実験施設（1,099.2㎡）が、11号館にはコンピュータ演習室（コンピュータ演習室A：240㎡、コンピュータ演習室B：103㎡、コンピュータ演習室C：82㎡）が整備されている。さらに、「早期体験学習」や「初期体験臨床実習」の全体発表会を行っている『ききょう記念ホール』（695席）がある。なお、実習室の規模は次のとおりである。

1号館 実習室4室（J155：299.5㎡、J145：318.0㎡、J135：318.0㎡、J115：319.5㎡）

2号館 実習室1室（J225：219.5㎡）

3号館 実習室2室（J335：223.1㎡、J325：184.1㎡）

【観点 10-1-1-3】

（資料：全館見取り図）

[点検・評価]

優れた点

- ・教室、施設、設備、機器の規模や数に関しては、私立の薬系大学としては高い水準を保っていると評価できる。

- ・薬学教育6年制に対応するため、11号館にコンピュータ演習室とSGDのための演習室が整備されていることは、十分に評価できる。
- ・様々な教育に対応できる講義室が整備されている。

改善を要する点

- ・特になし。

[改善計画]

- 特になし。

基準 10-1-2

実務実習事前学習を円滑かつ効果的に行うための施設・設備が適切に整備されていること。

【観点 10-1-2-1】実務実習事前学習のための模擬薬局・模擬病室等として使用する施設の規模と設備が適切であること。

[現状]

平成20年3月に竣工した新教育棟（11号館）は実務実習事前学習を円滑かつ効率的に実施するために新築したもので、講義、演習、実習が実施可能である。

6階建ての11号館の3階は320人の学生を収容できる大講義室が2室あり、4階は3階の大講義室とほぼ同じ面積の演習室が2室ある。演習室は、SGDやロールプレイ実習が円滑に進められるようテーブルなどが配置されている。ホワイトボードを数多く配置し、また無線LANが使用可能で、ノートブックタイプのパソコンを利用して発表スライドも作成でき、スクリーンや液晶プロジェクターを設置し、PBLでの討論のまとめにも配慮している。また準備室には折りたたみ型のベッドを準備しており、演習室を模擬病室としても使用可能であり、SPも参加した実習も行われている。

11号館5階には、注射剤調製室があり、前室の手洗いにおいては温水の供給が可能な自動手洗いとなっている。学生実習用クリーンベンチを18台設置しており、同時に数多くの学生が注射剤の調製が可能なスペースを確保している。同じく5階の試験室は院内製剤の調製など多目的に利用可能な実習室となっている。これらの部屋にはスクリーンと液晶プロジェクターも設置している。また5階に設置された医薬品情報室は病院などで利用されている医薬品や疾病に関連する書籍を配架して、模擬処方せんを用いた演習で活用している。

11号館6階は調剤室と模擬薬局があり、調剤室業務のほとんどが6階で実施可能であり、計数調剤、計量調剤（散剤、内用液剤、軟膏剤）、調剤薬鑑査などが実施できる設計となっており、学生120名が様々な調剤実習を同時に進行できるよう十分な広さと設備を備えている。また可動式スクリーンと液晶プロジェクターも設置して、実際の調剤手順の説明などにも利用している。

11号館の各演習室などの規模は、模擬薬局：238.3㎡、調剤室：384.7㎡、注射剤調製室：194.4㎡、試験室：230.4㎡、医薬品情報室：99.6㎡である。【観点 10-1-2-1】

（資料：11号館パンフレット）

[点検・評価]

優れた点

- ・一つの建物で実務実習事前学習に求められる講義、演習、実習が効果的に実施可能である。

改善を要する点

- ・特になし。

[改善計画]

特になし。

基準 10-1-3

卒業研究を円滑かつ効果的に行うための施設・設備が適切に整備されていること。

[現状]

卒業研究を円滑かつ効果的に行うため、1号館地階にNMR室(300MHz NMR)、同館2階に共同機器室(共焦点レーザースキャン顕微鏡、ルミノイメージアナライザ)、2号館1階に共同機器室(共焦点レーザー顕微鏡システム)、5号館にアイソトープ実験施設と動物実験施設、10号館1階に分子構造解析室(500MHz NMR、LC・固体NMR、質量分析装置(MS))、同館3階に生命科学実験室(LC-MS/MS、MALDI-TOF-MS、遺伝子導入動態解析システム一式、FACS Calibur)がある。これらのうち、NMR、MS、LC-MS/MS、MALDI-TOF-MSに関してはその保守管理運営、また一部の装置については測定サービスを中央分析室が担っている。共焦点レーザー顕微鏡、ルミノイメージアナライザ、遺伝子導入動態解析システム一式、FACS Caliburは生物系関連機器小委員会の管理下にある。

5、6年次の学生は16研究室のいずれかに配属され、平均250㎡と十分な広さを有する研究室で卒業研究を行うことになっている。各研究室の教育・研究用機器に関しても、通常の研究費とは別枠の研究費により順次整備されている。整備に当たっては大学全体としての必要性や透明性の観点から、研究設備等充実委員会が各研究室からの要望に基づいて、その要望の妥当性を判断し、妥当であると判断した場合、大学に対して予算要求する仕組みになっている。同委員会は、教授会下部組織として数名の教員を中心に構成され、研究設備・機器の新規購入のほかに、共同の大型研究機器の整備申請、実験や実習用機器の更新や新規購入、共同利用機器の運営、管理に関しても検討し、卒業研究を円滑かつ効果的に行うための研究設備や機器の計画的整備を図る役割を担っている。

[点検・評価]

優れた点

- ・卒業研究に必要とされる施設、設備、機器の規模と機能に関しては、私立薬系大学としては高い水準を保っていると評価される。
- ・管理運営に関しても、研究設備等充実委員会の下部組織として各種の小委員会を設け、きめ細かくなされており、有効利用されている。
- ・これまで分散されていた機器を10号館に集中させ、より一層の合理的かつ効率的な管理運営が可能となった。

改善を要する点

- ・購入後、かなりの年数を経た機器もあり、更新が必要である。

[改善計画]

導入後かなりの年数を経ている機器も多くあり、また、研究を取り巻く環境の変化に合わせ更新若しくは新規導入を検討しなければならない機器も増すと思われるため、今後計画的な予算申請などが必要である。

基準 10-1-4

快適な学習環境を提供できる規模の図書室や自習室を用意し、教育と研究に必要な図書および学習資料の質と数が整備されていること。

【観点 10-1-4-1】図書室は収容定員数に対して適切な規模であること。

【観点 10-1-4-2】常に最新の図書および学習資料を維持するよう努めていること。

【観点 10-1-4-3】快適な自習が行われるため施設（情報処理端末を備えた自習室など）が適切に整備され、自習時間を考慮した運営が行われていることが望ましい。

[現状]

昭和42年に竣工した図書館は、独立した建物ではなく、1号館3階、4階に位置し、昭和62年に集密書庫が増設され、平成12年に図書館外ではあるが、同じ1号館内の3階、4階に保存書庫Ⅰ、Ⅱ（52㎡）、学生自習室Ⅰ、Ⅱ（105㎡、74人収容）が設置された。さらに、平成19年に図書館閲覧室の館内改装を行い、平成20年には11号館が完成して2室の学生自習室（114㎡、80人収容と238㎡、157人収容）や医薬品情報室（100㎡、28人収容）、学生が自由にコンピュータを利用できるパブリックルーム（134㎡、50席）が設置された。平成21年5月1日現在、図書館の総面積は1,291㎡、書架棚総延長は4,272m、図書収容能力は11.8万冊である。

資料の収集方針は明文化され、平成11年より施行されている。この収集方針に沿って、教育・研究のみならず一般教養も含めた各分野のバランスを配慮して資料の充実を図っており、平成21年3月末現在の所蔵数は和書74,011冊、洋書34,097冊、合わせて108,108冊であり、視聴覚資料所蔵数は2,556点である。また、学術雑誌所蔵種数は内国書229種類、外国書321種類、合わせて550種類であり、平成21年度のプリント版学術雑誌購入種数は内国書70種類、外国書93種類（不定期刊行物を含む）であり、電子ジャーナルについてはコンソーシアム契約などを利用して現在2,812種類契約し、図書館ホームページにリンク集を設けている。

また、平成18年～平成20年の単行本受入れ数は、それぞれ1,458、1,530、1,668冊である。本館の図書と合わせ館外の医薬品情報室（11号館）や資料室（9号館）及び教養課程の各研究室と共同研究室（ともに4号館）の図書を集中管理し、不必要な重複をできる限り避けるよう管理している。これらの図書は、OPAC（オンライン蔵書カタログ）で公開し、学外からの検索も可能にしている。利用者からの購入希望は随時メールなどで受け付けるとともに、資料の選定については医療系教員を図書選定委員に加え、医療薬学系図書や雑誌、及びデータベースを充実させている。さらに、毎年、各教科担当者が授業内容を補足するための参考書としてシラバスに挙げた指定参考書や、学習などで必要な資料を事前に調査して収集に努めている。また、『テーマ展示』として時宜にかなったテーマを設定して資料を収集・展示し、最新の話題に関する情報を提供している。なお、読書啓発運動の一つとして平成19年から開始した『読書マラソン』では、積極的な参加者の姿が見られ一定の成果を挙げていると思われる。

図書館の開館時間は、通常平日9時～20時、土曜9時～16時（昼夜開講制大学院開講日は19時30分まで）である。さらに、入退館管理システムを活用して、日曜及び国民の祝日以外は、閉館時から21時30分までの無人開館を実施している（入館許可者は利用申請した職員と大学院生）。

また、学生自習室は、1号館、11号館とも8時～20時まで開室しており、授業時間（9時～17時50分）の前後にも利用可能である。また、学生自習室は、試験期間及びその4週間前は日曜及び国民の祝日も開室（8時～20時）している。

情報処理端末を備えた自習室は、図書館3階の機器利用室に12席設置している。また、11号館のパブリックルームに24台の端末が設置され、有線・無線LANに対応し、持ち込みのパソコンでの利用も可能である。【観点 10-1-4-1】【観点 10-1-4-2】【観点 10-1-4-3】

（資料：図書館利用のしおり）

[点検・評価]

優れた点

- ・図書館内の閲覧座席数は214席で、館外の学生自習室とパブリックルームの座席数を合わせると575席となり、収容定員に対する割合は35%で、十分充足されている。
- ・管理部署の異なる1号館と11号館の学生自習室について開室時間を統一し、共通の開室日カレンダーを作成してホームページや掲示で周知し、利用の便を図っている。

改善を要する点

- ・11号館の医薬品情報室には、医療関係者や患者などに対して情報提供するために必要な最新の資料を備えているが、利用時間が限られている。

[改善計画]

医薬品情報室を管理している薬学臨床教育センター（11号館内）と連携して、医薬品情報室に配置されている資料を有効利用できるよう検討予定である。